

幼童手ひき草

三篇

上

杉田玄端譯

三編

幼童

類教書目

類教書目
屬訓蒙
冊六
函五

第一編

手引草

くさ

明治甲戌年
第八月發兌

致高館藏版



幼童手引草三編卷之上

目錄

阿刺伯護謨及び粘料 第一葉

紙 第二葉 膠汁 第四葉

翎筆 第七葉 鋼筆 第九葉

信局 第十葉

泥紙及皮紙 第十一葉

封蠟 第十三葉

朱砂及び抹紙膠 第十四葉

「ゲツ」パール 第十七葉

三編上

三編上

目錄

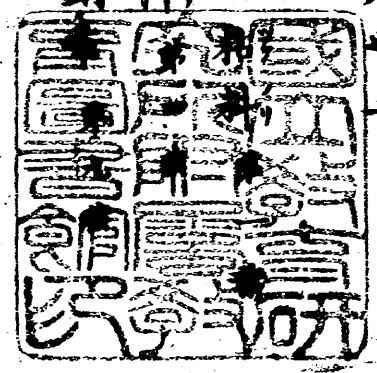
致高館藏版

昭和十一年十一月廿七日圖書部省令

如童手引草三編卷之上

教目録
所刺伯護漢來以

紙第二葉
物部
信局第十葉



泥紙及皮紙第十一葉

封壤第十三葉

朱砂及以抹紙膠第十四葉

ガクペル七第十七葉



圖書部省令

類教音
屬訓蒙
函六

第一〇四

石華 第十九葉

膠及比海棉 第二十葉

栲 第二十一葉

タルロウ及比蠟燭 第二十三葉

燈籠祭 第二十四葉

蠟樹 第二十五葉

蜜蠟及比麻 第二十七葉

漂白 第二十八葉

ケムブリク及比ラウシ 第三十一葉

グマス 第三十三葉

如童手引草三編卷之上

沼津

杉田横女端

譯

問 阿喇伯護誤トハ恣麼様ノモノアリヤ

答 善ク知れ渡リたる乾薬あり、埃及ト土耳其及

比波斯灣ノ近傍ニ産スル樹液ニシテ櫻桃及

比桃ノ膠乃如ク皮ヨリ出ヅルモノ

問 阿喇伯護誤ハ有用ノ乾薬アリヤ

答 然リ、以前ハ多ク藥劑ニシテ用ラレ共方

今ハ漆工及び水障具等を製する者専ら之を
貴重にするあり、

問 其ハ又上好の粘料ハあらすや、

答 然り、白酢ハ溶かセバ骨膠等を造るハ甚だ

好ま一物あり

問 但一常醋ハこれを造るに宜一からすや、

答 然り、尺色の宜一からざるのこ、何の醋ハ
之を造るハ桐壑を以テ密封一置く時ハ少
く乾くこふう候べし、

問 「ポウンス即チサンダラク」とハ怎麼様のもの乃

ありや、

答 常杜松樹の膠あり、之を細末とあり、
細篩

ハ通過するものを「ポウンス」と名け、書記紙
乃面の磨指せる露に用ゐるあり、

問 「サンダラク膠を多く用ゐるものハ誰ぞや、

答 箱工ハ於て之を用ゐ、又彩画工假漆を製す
るに用ふ、

問 紙ハ何を以て製するや、

答 麻布及び棉布の片屑を以て製成、又桑或ハ
他の練質物を以て製する共麻布棉布の片

屑を以て製はるもの、如く良あらす。

問 唐山の紙を以て何物より製するや。

答 絹を以て製せり。

問 通常の書記紙を製はるもの色はる片屑を

漂^{サス}白^スはるものありや。

答 漂白するもの、併あつて上好の白を書記

紙を製するもの白を片屑を以ては、

問 紙は如何して之を製するや。

答 先其片屑を撰^ニ分^クけて白を漂^スはるもの白紙を製

する料とあり、色あるものハ更ハ粗^{ワル}紙を製は

るに用ふ。

問 それより之を如何にあせしや。

答 これを磨^マふ上^ニて一器に清水を盛り、其中

か入るものあり。

問 其器ハ何を以て製せりや。

答 其ハ鐵^{テツ}の製^シ、此器ハ銳利ある長さ齒

即小刀數枚を具するを以て、此中に片屑を入

れて速^イに旋^マ轉^スする時ハ直に之を分裂して糊

状のものにあはし。

問 其後ハこれを如何にあせしや。

答 其糊状物を温湯の入りたる鍋の中に入る。然る時ハ恰も糊の稀解せるものゝ如くとなる。此に於て紙葉の大なる型模を其内に浸入しるあり。

問 其型模ハ何物に似たりや。

答 最好の細線網を以て製したる匡格に似たりと云。

問 其後ハ之れを如何に左せりや。

答 其型模を糊中に入れ要とせるだけの厚に抄ひ、好く搦振し紙に製しるあり。

問 其後ハ如何に左せりや。

答 一葉づゝ毛布二片の間ニ挾之を壓して扁平とす。其後一葉づゝ束に掛けし乾く。以て膠を施しあり。

問 何故に紙に膠を施せりや。

答 紙葉に墨汁の滲透し又散漫するを防ぐ。為し、但し其膠を施さざる紙ハ之を無膠紙

ペーパーリングヤ名ク、

問 膠汁の類なり。

答 膠汁の類なり。

問 如何して之を造れりや、

答 羊皮の切片及び羊胎皮の片屑を以て之を製すれ共羊胎皮より製する膠を以て上品とあり、

問 右の諸工作の殆ど速に説示するに能はざるや、

答 然り、追々最良の器械發明ありければ今日に至りては全く備具して糊を以て敷合時中小最細微の紙葉とありしむ、

問 但し最上の書記紙は今も尚手ふて製造は

るにあらざるや、

答 然り、

問 紙ハ既に往昔に於て知れ決りたるや、

答 但し往昔の紙ハ我輩の用ゆるもの如くからば、埃及人の「パパイリス」と名くる水草を以て之を製せり、紙を「ペーパー」と稱するはこれガ為なり、

問 其水草ハ何地ハ生ぜりや、

答 埃及國の尼羅河畔ハ多く生ぜり、

問 其草ハ造りたる籃内に現出したりと云

人ハ誰ぞや、

答 摩西モセあり、其土の人ハ今も尚其草を以て布フ、
席シマ、索ソク等と織成オリせり、

問 製紙磨シヤウキを始めて建設せしハ英國の何地か
りや、

答 千五百八十八年我天正根的の「ダルトホル
ド」地名「ジョンスピールメン」と云へる日耳曼人
之を建設せり、蓋し此人ハ女王エリサベトトよ
り貴官ハ取立られたり、

問 然れ共衆人尚之を疑ハきりや、

答 然り、シヤウキスピールル願理第六の條下ハ
製紙磨の吏を記載し、シヤウキハ英國よりハス
ピールメンとの時より前ニ建設せし相違ハ
かるべし、然れハスピールメンハ多ク工場
ハ改正を行ひ、シヤウキハ

問 製紙術を成功せしめたるハ誰ぞや、

答 「トーマス・ワトキンズ」と云へる一紙商シヤウキ
也、其時ハ十七百十三年我天正ニ在り、此人
専ら製紙シヤウキ術を尽シたるに因り、今無数の製
紙局をふけ不至れり、

三十一頁 六

問 紙の用ハ「ハロルド」の時ハ未だ知れ渡らざりや

答 然リ、而して英國ハ其國固有の製造局ヤ、其法を教くると遅かりし、

問 紙を張付ハ用の一如何程ノ久きや、

答 約千五百二百年許あり中古ハ壁面を捲ハ掛物と以てせり、然れ共一般に之を用るんは、甚だ高價なりし、

問 其目的ハ達せんよ、如何の法を取用しや、

答 各色の物を細く小到し、之を紙上ハ壓定

問 形とありあり、

答 更に手早ハ新法を見出さるや、然り、方今廉價の紙ハ諸色と一時に施を旋轉圓柱を以て形を着るあり、

問 其器械一個ハ一日に幾許ノ長ノ紙ハ形を印するもを得るや、

答 一萬八十尋以上あり、而して其模型ハ一里半の長ノ紙ハ形を印くべし、

問 然れハ之を切るもあさや、

答 然り、十二尋フ、の長ハ切るあり、

問 「バビール・マセ」といふ甚麼様のものかありや、

答 甚だ厚き濕潤なる紙を製する法を云、此紙

よりハ茶葉箱・衣箱・文書袋及び其他の美什を

製するべし、

問 其ハ如何にしてこれを製せりや、

答 之ハ二種あり、其常品ハ既に製したる紙を

敷葉相附帖して製し、其上品ハ紙を再び糊状

とふし之を模型の中ハ雁入て製するあり、

問 翎筆バクシも、甚麼様のものありや、

答 其ハ書記不用なる器什モノにして、鴉吐カキ・絞雞シロ・

カケイ孔雀及び鶯の翼ハネを以て製せり、

問 生活中年々羽翼を脱する禽鳥ハ何と云へ

るや、

答 雁カシ・グイグイ・もり、此鳥ハ之ヲ為ふリニコルンシヤ

ルノ沼中ハ多ク留トモまりり、

問 此鳥ハ翼下の繻ヌの為に苦しみ給や、

答 然り、此鳥ハ一年中ハ五回此苦痛小雁カシ・不

由ユへに其繻を以て我即ワレ・摩マ・歴レ・枕クシ・及び耳枕ミミクシを填

充ミるの用小當タるあり、

問 如何ある有名支シ・件ケン・少シ・四シ・りリ・とト・款クワン・人ジン・ハハ・ミミ・ケケ・

三才... 至... 雁を食するを

ルメス・デーニ... 記念とするや、

答 是西班牙海軍の敗北を記念とするあり、女王

エリザベツハ其新聞を得て頃午膳をりける

命トて以後ケールメスデーハ必以雁

問 然れ共往昔の習慣を今に用ゐるは其説小

感徳あるに似たりや、

答 然り、

問 今日... 何地

の民ありや、

答 土耳其人、黒人、及び東方諸國の民人あ

り、

問 往昔ハ何物を以て文字を記せりや、

答 鐵條を用ゐたり、而して其一端ハ文字を記

し易き爲に針の如く尖鋭小あり他端ハ之

を削り落す爲に尖鋭小なきに幅廣く

問 右の鐵條小ハ何物と文字を記せりや、

答 塊の小版上に記せりあり、然れ共パイロ

三才... 九

ハ或ハバルチメントハ詳ハ記するハハ蘆管を
用ゐたり、

問 雁・蜂及び犢・世上を支配する云々を戯言と
し説示せよハ誰そや、

答 「ミストル・ホーウルあり、此人の説ハ雁ハ翎
筆を出し蜂ハ蠟を産し犢ハ皮を給せりと云、

問 翎筆ハ如何なる新發明ありしより専ら廣
多ク小至れりや、

答 「ビルミンクハムハ於て鋼筆ルベテ之を發明
せしよりあり、

問 此物を製造するハ幾多の双手を要する
や、

答 数千の双手を要し而して之を為に一個年
費を所は鋼ハ數百噸不及なり、

問 一噸の鋼より幾多の鋼筆を製造せりや、

答 殆ど二百萬個ありて其大分ハ外國ハ輸出
せり而して其落成ハ至るより十四廠の手數
を経るあり、

問 外國中如何なる國ハ翎筆を以て足れりと
するや、

答 波蘭普魯社あり此國々ハ魯西亜より亦翎翹を輸入せり、

問 始めて英國ハ信局オピストを建設セーハ誰ぞや、

答 「たーレス第一あり、此君主ハ一連中ハ一次倫敦と壺丁不との間ハ書信を通るは局を置きたり、

問 此利益を大ニ擴充セーハ誰ぞや、

答 「オライフルコロムユール人あり、

問 近年信局の事務ハ甚ク廣大ニあらざり、

や、

答 然り、是十八百二十年我天保ハ書簡の大々同く一其代料を一ペレニ我銀九分七五セーよりあり、

問 畢竟それより何莫を生ぜりや、

答 方今不在ハ信局より輸ハ書簡の數年々五萬萬の上ハ至れり、此莫ハ信局總裁の告知ハ據るハ千八百五十七年我安政ハ於てハ已前の仕方より取扱ふよりハ其數六倍を多ク似たりと云、

問 泥紙ハルストボトハ如何なるものありや

答 敷葉の紙を共ハ泥トありて壓し固め造りたる骨牌を云、

問 皮紙ハニダトハ如何なるものありや

答 羊及び山羊の皮を石灰水の井中ハ投して軟化し製したる紙あり而して之を書記ハ適當せしむるハ其面を水ハて濡し其上ハ粉末せる浮石を摺付くるなり

問 これを剗意せし人ハ誰ありと云へるや

答 「ベルガム」ス名地乃王「ユーメニス」ス名地云へり然

此共此王ハ剗意者ト云ハれりて修繕者ト云ハれたり

問 何故ハ斯クハ恐ハれたりや

答 其ハ波斯人及び他國人「ユーメニス」の出でざり前既ハ久下ク其記録をそへて皮ハ記せりと云ふハ因り然レ共埃及國の王「アトレミ」ハ之を「バイリス」階よテ清りけるを嫌ひて其代ハ獸皮を製するに意を注ぎたり
問 古人ハ甚ド羨ふる手書を作るハ注意する
ト大あらばや

答 然り、其書冊の縁ハ飾るニ黄金を以て、其紙葉ハ「ベル」を染むるに紫色を以て、又墨汁ハ黄金液を以てを名の外、其表紙ハ寶石を鑲めたり、

問 古物中貴重ものニ坐の書堂ハ何地よりや、

答 「アレキサンドリア」の書堂ハ埃及の國王「プロレミ」の聚むる所あり、「ベルガム」の書堂ハ「ユーメニス」の聚むる所あり、而して其「ベルガム」の書堂ハ「マーク・アントニ」之を「ク

レオパトラ」ハ与へけるハ其人之を一ハ併せたり、然る最事情むるハ紀元六百四十二年我皇「サラセン」ハ教を弘の為ハ焼失せられし、

問 紙葉「ベル」ハ甚麼様のものなりや、

答 幼犢の皮あり、此ハ通常の皮紙より密にして白く且滑澤なり、

問 方今ハ何の為に多く「ベル」ハ及「パトナメント」を用ゐるや、

答 紙より久しく保たるるを要業を記する

不用ふ、依て状師ルロニエハ之を多量小用ありあり、

問 其ハ何地ハ専ら製し出せりや、

答 佛蘭西あり、

問 封蠟^{グシ}ハ甚麼^{グシ}抹^{エリ}のりありや、

答 其ハ紫^シ鉛^ク朱砂^シ及^シ以^ル威^ニ尼^テ斯^レ的^シ列^シ並^シを以

て製^スるべし、而^{シテ}其^ノ製^メ法^ハ紫^シ鉛^クと^シ的^シ列^シ並^シとを火^ニ上^ニ小^シ溶^ク解^スし朱^シ砂^クを以^テ適^シ意^ニ小^シ色^ニ彩^スを施^スるあり、

問 紫^シ鉛^クと^シ如何^ニありや、

答 東^ノ印^ノ土^ニあり、新^ノ多^ノの樹^ノ上^ニと^シ昆^ノ灰^ノの造^リた

る^ノ物^ノ体^ニあり、

問 朱^シ砂^ク如何^ニあり、

答 紅^シ色^ノの礦^ノ物^ニあり、水^ニ銀^ノと^シ専^ラら^セり、抹^取以

問 其^ノ礦^ノを^シ出^スる^ノ大^ニ地^ハ何^ノ地^ニありや、

答 是^レ班^ノ牙^ノの^ノアル^ノマ^ノチ^ニ、切^リ牙^ノ利^及以^テラ^シル

口^ニイ^ハル^ノ在^リ、

問 抹^取紙^ノ膠^ノ如何^ニありや、

答 糞^ノ内^ニコ^トイ^フカ^トイ^フ子^及以^テ他^ノの^ノ雨^ニ至^リ墨^ノ利^加

諸^ノ地^ニに^シ産^シは^ル、と^シ云^フへ^ル大^ニ樹

乃液を乾かしとるものあり、

問 其ハ森林中の葉莊^ハ成るる樹木ハ列せざるもや、

答 疑なく之ハ列せり、其故ハ其樹ハ只ハ二、三ツリ^ハの次位ハあるのみ、一ハ數里隔ちたり、其葉より之を介つて其容もよく測るべし、其樹ハ其葉百尺の上ハ抽き其枝極廣大あり、面ハ布様多し、此ハあり、

問 其液汁ハ如何して採るべきを得るや、
答 皮面ハ横截を造りて其下の地を窪くし、

而して之ハ流れくるを採るが為ハ其内ハ木葉を粗厲ある碗の形ハ重ねて敷く也、

問 其液の色ハ甚麼様ありや、
答 佳品ハ甚だ美白色なり、殆ど乳汁の質に

似たり、其始めハ夜中速ハ流出せん共二三日を經り時ハ截口ハ層を造りて留るるあり、

問 如何して我輩の用に充る状態に變りや、
答 其所要として造りたる型模中の其液を敷布するあり、

問 然して之れを如何に用ひや、

答 其板の入りたる型模を全く乾くまで煙の上小掛け置く時ハ片々ハ破砕をべくあり、
 摩擦ツルの用ハ適するあり、

問 土蕃ハ其を何変ハ用ゐるや、

答 るれを火把カマ作り又靴子カウチ襪子ソックス及び一種の衣服を製して何れも水の浸入を防ぐあり、

問 我輩ハこれ何変に用ゐるや、

答 久しく只石華の黒斑クマを消する為の用ゐたり、去るがう近頃數年來之を以て諸種の物什を造り出せり、

問 如何ハ一之を造れりや、

答 諸般の試験を経ル後、其彈性を失ふるべく

溶解をすると發明せり、

問 彈性とい甚麼様の変を謂へりや、

答 其ハ之を屈折カクセツ一之を壓縮カクサツするも之を過むれば再び以前の形状に復する體性を云あり、

問 其最良の溶解藥ハ何物を發明せりや、

答 亞的兒アヂル石炭油アヂルナフタナフタ及び三種烏藥油ウヤクあり、

問 其溶解せるものを怎麼様ハ用ゐるや、

答 其溶解したる膠カウチを布上に塗抹し、其上に復

た塗抹—又塗抹—了相共ふ之を歴定—以了
其より外套衣囊枕及び却水諸什を製する也
問 有智の人此有用なる物を應用—了日々新
發明を得ざり—や

答 然り、鯨鬚の代—了鐵索馬腹帶及び外科
所用の紐帶ハ今皆此膠を以て造り成せり

問 此膠より燈に用ゐる油を取るとあるや
答 然り、蒸餾—了惡臭るを瓦斯の如き微細な
多光輝を發せり

問 此膠を全く固形体ならん—了近時發明し

と所不はるはや

答 然り其製法と經て後之を蒸氣の壓力に當
れハ堅脆の質とある共破碎し難—了と

問 此の如くふりたるとは何の用を成りや
答 掃又ハ厨櫃ふり改造する櫃の代をあらす

問 歐羅巴の—了何の項より之を知れりや
答 フクトル石アリ—了ストレイ—了人々國を畫く

者不之を用ゐる—了と教へ—了十七百七十年
年知て—了や之を知るものあり—了

問 近時の發明に因り此膠を用ゆると少く
衰へざりや、

答 然り、先此物より製したる許多の物品を
方今ハ「ゲクセル」ナヤヨリ製するに成りた
り、

問 「ゲクセル」ナヤヨリハ怎麼採のものとありや、
答 新嘉坡及び婆羅の島々に産する樹液の乾
きたるものあり、

問 其二島ハ何の處にありや、

答 亞細亞洲印土斯當の東濱ナリ、

問 其地に「ゲクセル」ナヤヨリの産するものに心付
ハ難きや、

答 千八百四十三年我天保十一年於「ドクトル」名
「モン」トゴメリ」名之に注意したり、

問 其膠以得べき樹ハ大ありや、

答 然り、其ハ直径六尺のもの往々之あり其木
材ハ家作に用ふるに多し、

問 其液ハ怎麼採ふに之を得るや、

答 皮面に刻紋を入るれば乳汁採の液流出し
其液速に凝結を成り、

問 此物何の目的ふ之を用ゐるや、

答 靴子及び靴子の底・圖画の匡・外科の繻帶・車索・筒管及び其他の諸物を製し并に衣服等を水の浸透せざる様ふあを為し用ふ、

問 「ゲックベルチヤ」の尤ある性質ハ甚麼様ありや、

答 寒氣及び溼氣ハ侵さるゝとなく熱湯ハ浸せば軟ふあひゝ得べし、而して軟うにあふ時ハ各種の形よ之を造るゝを得べし、甚だ膠着する性質はれども抹紙膠の如き粘着性ある

問 石筆シムハ黒鉛シムハ了造らざるや、

答 否、黒鉛の名ハ甚だ宜しからば、一種稀有の雜金を以て成るものありて學問上より之を「グラムバゴ」と名づけ共、抗戸ハ之を「カド」と名づく、此ハ軟柔油様の質にして版石エト層の間に三四斤の塊片をふいを見るものあり、

問 此金の最上品を出す坑ハ世界中何の處にありや、

答 「カムブルランド」英國の「ホルローデル」

地小在り、此處日下ハ其産する多し、夥しくして
四年乃至七年ハ只一回整開し、單一人より一
小時間ハ二千「パウンド」の價のものを得べし
といひ、又其量を十令日掘取し後ハ倉入ねり再
び之を填む塞ぐあり、

問 石墨の坑を毎年開くと近する必要とあり
たりや、

答 然り、其用ハ供するに速に不足とあるべき
を恐るればなり、

問 石墨を石筆に造るふハ其製法ハ之ををや、

答 然り、先、油中に煮し甚だ細き方形の條に鋸
截し之を杉木ツギの一小片ハ截刺せる小溝
中に挿ると其上ハ他の小木片を膠着する也、

問 石墨坑ハ只一個處ありたり知れざりや、
答 然り、され共近時數個處ハ於て之れを見出
したり、然れ共其坑より出せる品甚だ粗悪に
し砂の如く且堅硬あり、英國ハ其書記に用
ゐる良好の石筆ハ年々百千の輸出ハ要求せ
られたり、

問 膠カウチ如何なるものなりや、

二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

答 獸類の皮及び神經を煮て粘汁とふら時ハ
膠とふるべし、

問 画筆ハ如何してこれを製するや、

答 駱駝の毛を翎鬃に替へむなり、

問 駱駝乃毛に如何ふる妙處有りや、

答 軟爪にして且細し是故に印土ゆて甚だ粘
美なる婦人の羨服にこれを用いて製するべし、

問 刷毛ハ何の毛を用ふるや、

答 豚乃毛を用ふ豚毛ハ韃子正鐵の代りも亦
用ふるなり、

問 海綿ハ如何様のものなりや、

答 此ハ海水を抜むる物にして其物ハ所の動
物よりとまはり、

問 其生ずる甚だ速くなるとりや、

答 然り之を全く取除かざる先も只二年の
石上に充滿するも厚あり、

問 通常何地より之を運輸し來れどや、

答 公孫瓚打諸球ハルバリヤ諸邦及び多島海
より來る、

問 公私瓚打諸球ハ何地に在りや、

答 公孫瓚打諸球ハルバリヤ諸邦及び多島海
より來る、

問 公私瓚打諸球ハ何地に在りや、

答 公孫瓚打諸球ハルバリヤ諸邦及び多島海
より來る、

本草綱目卷之九 木部 栲樹

答 歐羅巴に在り、土耳其の首府あり、

問 同ルバリーの諸邦ハ何地ハあり也、

答 阿非利加の北ハ在り、

問 海棉ハ何の爲ハ用立也、

答 外科に用立つあり、又画工に於てハ彩画を

洗淨して其色彩を掃くも用み、又家什

一用ふ、

問 栲樹ハ何物なりや、

答 一美樹の皮をり、而して其根ハ大根樹の一

種なり、

問 其ハ何地ハ産をるや、

答 以太利、是班牙、葡萄牙及び歐羅巴洲他の南

部諸國ハ産也、

問 其皮を剥くハ樹を損をるもハありや、

答 無一其故ハ抱ハ實に死皮をるを以てあり、

而して此樹約十五年の齡ハ至る時ハ其皮を

剥くハ相當ハ八年若くハ十年とて剥くよ

り屢をべうに、

問 之を製をるハ如何なる方子に以てせりや、

答 水に煮て烈火ハ乾かす、

問 くらを何の用ハ充ツるや

答 専らコ纒コ子の栓塞ハ用ルる網ヲを浮カかシ用ルる

河ハ於テ了ル船路ヲ示ス為シ用ルる、鞋底ハ用ルる、又

水泳ノ短衣ハ用ルる

問 埃及人ハ袍ヲ以テ棺ヲ造ラざりシや

答 然り、其技ハ薩摩ヲ塗テる人跡ヲ貯蓄スる

たリ樹油ノ採ルる要成物ヲ以テ之ヲ掩フあり、

問 是斑牙黒トハ如何ナルものありや、印刷家ハ

於テ了ル甚カク多ク之ヲ用ルるたリ、

答 袍ヲ黒焼カたり物ナり袍屑ハ通常ニ於テ

たリ賣ルるべシ、

問 蠟燭ハ尤モ何ヲ以テ製スるや

答 丸ル口ノ脂ヲ以テ製ス、

問 丸ル口ノ脂ハ如何ナルものありや、

答 羊及ビ牛ノ脂ナり、

問 脂ヲ製スるハ甚カク様々なるハや、

答 度々煮テ水ハ澄シ明カクシテハ清浄なリ

ハ、

問 型ノ蠟燭ハ如何ナル製スるや、

答 溶カたり脂ヲ錫ノ型中に注ス入ル其正中に棉ヲ

糸を固定し、

問 厨用の蠟燭ハ如何して製するや、

問 長條ニ燭心を結着けて熱く溶うたる蠟

ニ浸れし二三回ふして蠟燭固有の大となる
不至る、

問 英國の何王の治世ニ脂製蠟燭を奢侈とせ

しや、

答 「ヘンリー王第三の時代あり、當時ハ通例木

柀を燃やしたりと云、

問 英國の何王往昔蠟燭より時を測りしや、

答 「アルフレット・サングレート王あり、此王一種の

蠟燭を製して廣狹諸色の輪及び帯を画し
たり、

問 何の爲に此の如くせしや、

答 王ハ其蠟燭の燃焼ハ因りて一夏ハ幾何許
の時間を費せしやを知らんとせしあり、

問 其工夫ハ王の意ニ全く適ひしや、

答 否、王ハ其蠟燭ハ風吹を来れハ速に燃へ盡
るを知らず、以て之を柀に燈籠をとり能
はざるを發明しなれり、

問 唐山の燈籠祭と稱する宏麗なる祭祀あらんや、

答 有り、新年とあり、後、第十五日不在り、其夜は、許多透明の燈を戶外に懸けたるが故に外國の人より全國恰も仙境と云ふ如く思はるゝあり、

問 唐山の俗は貴賤となく此流風は漆まざるや、

答 漆となく、富貴の人も日々儉約して其食膳衣類調度の失費を惜み以て其燈籠は財を費

すあり、而して其中は二十兩を賣ひるものも亦之あり、

問 唐山の内地に入るに歐羅巴の人はいかに適ひ難きや、

答 然り、唐山の民は外國人と交はるを嫌ふに因り、俱一二港に於て茶及び其他の商物を輸出するものと、而して外國の旅人内地に入れば大小危害を被むるあり、

問 其鎖國の風習を廢止せしむるを得んや、誰そや、

答 「ロルド・華エルギ」と云人千八百五十八年

我年 政 唐山戦争の後、之を廢止せしめたり、

而して我輩今條約に因りて唐國の諸部小旅

行するの許可を得たり、

問 粗燭「ラス」ハ如何して之を製せりや、

答 厨用蠟燭と同法を以て製すれ共只其燭心

を乾きたる蘭の碎裂する者より製するは異

と異なるなり、

問 蠟樹「ツル」ト名くる一種の樹有りや、

答 有り、此樹ハ唐山に於て産せり、此樹の實ハ

栗の如き殼中小在りて三個の白き核より成

れり、

問 支那人ハ其核より如何して蠟燭を製せり

や、

答 其核を溶して少許の油を加へ之を朱ふて

漆むるなり、此物脂製蠟燭より上品と云ふ共

蜜蠟製蠟燭に比し下品あり、

問 支那人ハ如何して燭心を製せりや、

答 乾きたる木の小片ハ燈心を卷きて製す、

問 蜜蠟製蠟燭ハ如何して製せりや、

答 脂の代ハ蜜蠟を溶いて製を、而して其心ハ麻絲を用ゐるハ決して之を剪るハ及ばばと云、

問 テーブルスストハ如何乃蠟燭ふりや、

答 蜜蠟製蠟燭の其大と種々くハするものなり

て華式其外寺院の禮典ハ燃燒ハ、

問 テーブルススを約百年間昼夜共ハ燃燒する

ハ誰の墳墓ふりや、

答 「ヘンリー第五の墳墓なり、然れ共此の如き

風習ハ改革の時悉く之を廢止したり、

問 蜜燭ハ如何採のものなりや、

答 蜜蜂の巢を造る材なり、其色黄ゆして蜜の

如し、

問 白蠟ハ香麝のものとありや、

答 蜜蠟を水に溶いて日及ば木氣ハ晒して製するなり、

るなり、

問 麻マキキララトハ如何ものなりや、

答 木本の如き葉も一年草の莖葉細く、花青

きものはをぬき之を製するあり、

問 其ハ何處の産物なりや、

答 大不列顛及以阿爾及利亞、荷蘭及以フランス、ドール区又世界中化の諸部小と之を産び
るあり、

問 其功用ハ如何、

答 襦袢・褌・布・室布及以其他許多の物件とあり
布を織成す小用ふ、

問 之れを採取するハ如何セリヤ、

答 第三月及び第四月之を蒔き熟する時ハ
根より引抜き水に漬け泡を起すハ其皮
即ち麻線自ら分かるあり、

問 其他尚も何を要セリヤ、

答 然り、其線ハ特に整列し且其用ふべき目的
ハ應じし紡ぎ又布を織りて而して後之を
漂白せしめり、

問 漂白ハ如何の支を云ふヤ、

答 織布を日光及び大氣に曝し、白くおれ法
と云ふ多り、若し織布織工の手より出たるま
まある時ハ麻線の色白くして淡褐色あり、

問 其工業ハ如何して落成ふ及べりヤ、

答 其始ハ之を練及び水に浸し次ハ好く洗ひ

問 草の上へ展げ以てこれを乾くはあり、
其次ハこれ如何せりや

答 水を桶に満して之を木灰の強きものを混
合して布上へ散布し且之を洗ひ又乾かして

問 為ふ展開するに宜く敷回に及ぶべし、
往日ハ麻布を屢略餘パツルハ小浸漬する

答 然り而して後能く之を水を注ぎつけ且屢
石鹼と水とを以て洗へば愉快の白色をあら

あり

問 此繁雜ある手法を専ら手短かにするに
とや

答 有り、略餘の代としてコロリン若くハ硫黄
の烟氣を用ゐたり

問 「コロリン」とハ如何あるにありや
答 烈臭ある綠色瓦斯にして速に其色彩を褪

問 麻を布に製するに何地を以て有るかと
とるや

答 阿爾蘭の「オルストル州」蘇格蘭の「ダンザ

及ビ「ガラスゴウ」の二城及ビ「ヨルクシャル」及ビ「リンカシャル」の工^ゴ作局^バ部^フあり、

問 此有益なる麻草ハ元来何國より來れるや、

答 泥祿河より年々出水をる埃及國より來る
とせり、

問 麻布の為ニ有名なる埃及國より出るる最^ト

誠ら^クびや、

答 然り、蓋し其證據今も尚多く存するを以て

ふり、麻絲ハ終て手小^シ織^ルる上^ニ雖も其精微なる^ト之^レを布^ハ織^ルバ「ラーフィン・アイル」^ニ織^ルる

と名くる程小細微ありと云ひ、

問 此^ノ支^ト業^ヲを過^シ称^スするに史^ノ録^ノ家^ハ如何^ニ之^レを記

載^セりや、

答 其^ノ絲^ヲを以て網^ヲを編^ミ成^スるや、一^ノ團^ノの^人衆^ハよく

心^ヲを合^セせされば得^ルは且^ハ一人^ノの^出所^ハ全^ク林^ニを
取^ル卷^ク許^スありと云り、

問 「^ニルト^ン」^ノ地^ノの^女候^ハ針^工を^おせ^し支^ヲを^記し

て其^ノ細^カ微^カなる^織布^ヲを^許多^クの^縁飾^ヲを以て羨^シ麗^ク
ふせし^トを云^ハさ^りや、

答 然^リ、金^ノ絲^ヲを針^ヲ貫^キて布^上に^諸動^物の^圖

画を續縫し、又屢金線を布中に織こむるハ
一個の襦袢を造るに十リナルニ三兩ニアル許ハ我
を費したるに屢ありと云、

問 不列顛諸島の内麻布の為ふ有名あるハ何
島ありや、

答 阿爾蘭あり、此島ハ「ゼームス第一」の治世中
其本國に隨從するを嫌ひ、「ロンドン」デシリ
「イリ」コレ「ライ」ン名地ニ居留したる蘇格蘭人の
藩屬地あり、

問 其地ハ其國の尤ふる製造局ある處ふあら

むや、

答 然り、麻草ハ其地ニ大ニ注意して培養し
益ありと云、

問 諸人の肌層ハ纏へる者ハ阿爾蘭産の布ハ
何ら於や、

答 然り、其ハ麻を以て造りたるものなり、之
を阿爾蘭産麻布と名く、而して阿爾蘭の北部
ある「バル」ハ「スト」カ「ル」リ、ク「ヘル」ゴ「ス」及「ロ」ン
ド「ン」デ「ル」リの諸邑ニ於て夥しく之を製し、
問 其布ハ如何様のものなりや、

絹糸を以て製したる透明なる薄き織物

問 此良品に金線を以て甚だ立派な縁飾を附

答 土耳其及びセルビアの人民あり、

問 ケムブリスの甚だ模様のおおききありや、

答 麻より織たる諸布中最微細なるものあり、

問 ケムブリスの何地ふありや、

答 シケルト河畔に在る佛國の嚴重な胸壁を

以て裝飾せる邑あり、其地の古寺に「テレマ

ス」の如き有名な作者へ子口に葬らるる

問 「ウ」の甚だ模様のおおききありや、

答 薄き室内用の布あり、其始は「エリサベツ」女

王の治世に甚だ少量に英國に舶来し富家

問 此精緻なる物品に就てハストウ如何様の

の説話を承せしや、

世に及ぶ

至正同治庚辰

答 他ハ異常奇巧の物品トシテ説話セリ、是ハ因テ程ホク蜘蛛網膜の領飾を装ツケサレハ能ハキハキルの戯言ウソコトを説ツクスルハ至マズルナリ、

問 此の如く薄き物品より領飾を造るハ如何ナクある困苦クツを生ハセルヤ、

答 之に類シテ強軟キウカンなるの物品モノを造ツクルハ但シ之レを知ルル人英國イギリスニハ曾マテハありシニ此法コトを知ルル荷蘭オランダの婦人「ヤンゲン」と云ハル者倫敦ロンドン來リ始メテ英國イギリスニテ類シテハ造ツクルルハ強軟キウカンヘテ

問 グラスゴウハ如何様ナノモノナリヤ、

答 羨スムル絹キヌ或ハ麻布アサヒニ大キキル花卉カキを画エキル或ハ模様ヨウモウを織オリ出スルルハ至マズルナリ、而シテ其ノグマシスクト名ナケリハ叙里亞シリアの達馬斯谷タスマスハ於テ是ノ意ヲハ因ル、

問 今其製造ハ於テ表著ハキルハ何地ナナリヤ、

答 「フランドルス部内ノトウルナイ及ヒ三教シヤムシ部内ノ「シヤロン」ニあり、而シテ近時ハ英國イギリスハ至マズルナリ、

問 達馬斯谷ハ尚ホ此他ノ物品モノニ有名ナナリヤ、

世三

K110-2.7

三才圖會

卷之七

至書創唐抄

答 然り、羨ある箱類及び良好の靴、鞋を以て名
聲あり、但し曾て有名ありしハ物の製造ハも
ハや之のなるをあり、

幼童手引草三編卷之上終

幼童手ひき草

三篇

下

ノ

㊦